

『平成』の終わりに『令和』にも伝えたい『昭和』のモノづくり

今回は私の勤める職場を紹介させていただきます。
中部デザイン協会の懇親会などご挨拶の時、名刺交換
させていただくと会社名『原田溶接工業所』???ほと
んどの方に「溶接屋さんですか?」と聞かれます。中部
デザイン協会の懇親会で『溶接屋さん』って確かに不
思議ですよ(笑)

現在は愛知県安城市桜井町でスチール製の椅子や
テーブル、デスクを製作する工場です
戦後間もなく創業した時は農機具の修理(鍛冶屋さ
ん的?)中心に溶接仕事をしていたそうです
高度成長期に本格的にスチール家具の溶接加工が始
まりました当時の主力製品は、昔ながらのねずみ色し
た事務用回転いすの部品を溶接加工していたよう
です。製品機種が少ないせいとかにかく大量生産で部品
1000個以下の生産ロットの時などは親会社の担当
者が『藤田屋の大あんまき』持参で仕事の依頼に
来ていたようです(笑)空前のボーリングブームの
時は夜中までボーリング場の椅子を作って昼間は
搬入設置を繰り返してたと聞いています
(働き方改革以前の問題ですね!)
台風シーズンには『物干しざお』や『テレビアンテナ』
を副業にしていたようです。
とにかく『昭和』って大量生産の印象が強いです。

時は流れ平成5年に私は当時勤めていた会社を退職
して協力工場の1社である
『原田溶接工業所』に転職しました
転職した理由はモノづくりをして働きたいとつよく
おもっていたのに当時は今よりも職人気質な従業員
も多く『よそ者』には厳しく何度も心が折れました(笑)



そんな完全アウェーの環境でも競馬、競艇と並行して技術、技能を習得しました。

現在では自分が思うようなデザインを図面を書き自ら加工し製作できるようになりました。

石の上にも10年はかかった気がします。

工場の設備についてですが溶接は炭酸ガスアーク溶接、ティグ溶接、ろう付け、溶接ロボットパイプの曲げ加工に使用するパイプベンダー8機 (NC2機) 50トンプレス3機、20トンプレス3機、小型のプレス5機いずれの機械も汎用機なので様々な加工に対応します
また外注にはなりますが板のレーザー加工、曲げ加工、パイプのレーザー加工も可能です。

今でも私自身が試作品はすべて製作しています。
製作可能なものであれば何でもお作りさせていただきますよ!

この頃では木材の製材会社さまからの依頼で無垢材テーブルやベンチ脚などを一点モノのオーダー品を製作したりしています。

平成も終わりに近づき多くの製造業が廃業しているようです。

最後になります

後継者不足も深刻ですが

『令和』にも『昭和』のモノづくりをしっかりと伝えていきたいと思えます。

今度とも宜しくお願い致します。

